

音楽を聴いて「感じ取る力」を育むための学習指導の工夫 ～ 音楽鑑賞の活動を通して～



那覇市立古蔵小学校教諭
佐久川 周子

目次

I	テーマ設定の理由	15
II	研究目標	15
III	研究仮説	15
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	16
V	研究内容	16
1	鑑賞の活動について	
2	音楽をきいて「感じ取る力」について	
(1)	音楽を聴いて「感じ取る力」とは	
(2)	感じ取る力を育てるには	
3	音楽を聴いて「感じ取る力」を育む学習指導の工夫について	
(1)	音楽の要素や構成に視点をあて聴かせる工夫	
(2)	感じ取ったことを言葉で表すための工夫	
(3)	曲のよさや特徴を感じ取る場の設定	
VI	授業実践	18
1	題材名	
2	題材について	
3	題材のねらい	
4	教材について	
5	児童の実態	
6	指導観	
7	題材の評価基準と学習活動における具体的評価規準	
8	指導計画	
9	本時の指導	
(1)	目標	
(2)	授業仮説	
(3)	本時の展開	
VII	結果と考察	23
VIII	研究の成果と課題	26
1	成果	
2	課題	

音楽を聴いて「感じ取る力」を育む学習指導の工夫

～音楽鑑賞の活動を通して～

那覇市立古蔵小学校教諭 佐久川周子

I テーマ設定の理由

現行小学校学習指導要領の鑑賞の領域では、教師の教材選択の幅を広げ、柔軟で創意工夫のある鑑賞の授業が展開できるようになった。新小学校学習指導要領（H20年3月28日告示）中（高）学年「鑑賞の活動」の指導事項の一つとして、「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気づく（を理解する）こと」が示された。また、津田正之（2008）は、「感じ取ったことを言葉に表すなどして友達と伝え合い、個々の子どもの感じ方のよさや違いを認め合う活動を行うことによって、受け身になりがちな鑑賞活動を、主体的かつ創造的なものに変えていくことが期待されている」とも述べている。

本校の児童は、日常生活の中で様々なジャンルの音楽に触れている。鑑賞曲が流れると「この曲、聴いたことがある」「〇〇のコマーシャルで流れている」と反応を示したり、曲に合わせ指揮者の真似をしたりする児童もいる。

これまでの授業を振り返ってみると、鑑賞の活動の中で、児童が感動したこと・感じたこと・わかったこと・気付いたことをノートやワークシートにまとめることが中心となり、感想を発表し合い味わうまでには至らなかった。また、曲の変化や声の変化に気づいた児童のつぶやきや気付きをうまく捉え、授業を展開する場の設定に結びつく実践は十分でなかった。

鑑賞の活動において、児童が感動したこと・感じたこと・わかったこと・気付いたことなどを相手に伝えることは、考えて聴く・聴いて考えたことを、「言葉に表すことができる」とても大事な場面である。同じ感想や自分とは違う感想を通して、互いの思っていることや感じていることを理解し伝え合うことは、音楽を聴いて感じ取る力を育む重要な場面である。

そこで曲想のイメージをもたせるために、曲の要素や構成に視点をおき何度も繰り返し聴くことで、音楽的感受を豊かにすることができるだろうと考えた。また楽曲を聴いて想像したことや感じたことを相手に伝える手だてとして、ワークシートを活用して、「文に書いてみる」「感じたことを発表する」「絵に描いてみる」「体で表現する」など聴くことと表現することを一体化した鑑賞活動を展開することで、児童の音楽を聴いて感じ取る力を育み、曲のもつよさや美しさを味わい深められると考えた。

このような鑑賞の活動を通して、音楽を「感じ取る力」を育むことによって、児童一人一人が主体的に音楽のもつよさや美しさを感じとり、味わうことのできる児童が育つだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

音楽鑑賞の活動を通して音楽を聴いて感じ取る力を育む学習指導の工夫を研究する。

III 研究仮説

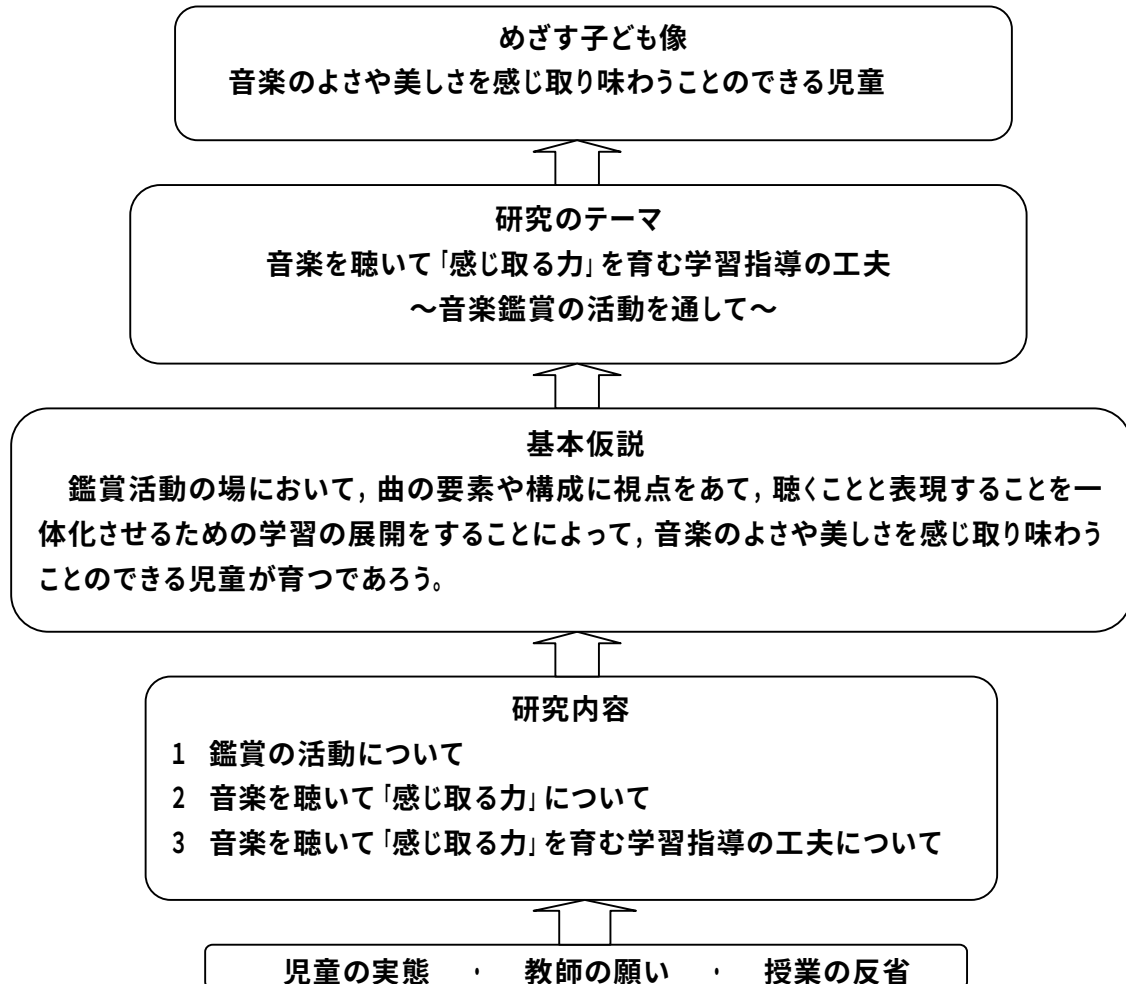
1 基本仮説

鑑賞活動の場において、曲の要素や構成に視点をあて、聴くことと表現することを一体化させる学習の展開をすることによって、音楽のよさや美しさを感じ取り味わうことのできる児童が育つであろう。

2 作業仮説

- (1) 鑑賞の活動において、曲の要素や構成に視点をおき何度も繰り返し聴くことにより、曲のイメージがふくらみ、感じ取る力が育つであろう。
- (2) 鑑賞の活動において、聴くことと表現することを一体化させる場をもつことにより、曲の持つよさや特徴を感じ取る力が育つであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 鑑賞の活動について

新小学校学習指導要領音楽第5学年及び第6学年2内容B鑑賞(1)鑑賞の活動において指導事項は次の通りである。

ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

と示されている。そこで「曲想の特徴」「要素のかかわり合い」「言葉で表す」をキーワードに「感じ取る力」に視点をおき楽曲の特徴やよさを理解し、味わっていく鑑賞活動を展開する。

音楽の要素や構成について視点をおき楽曲を何度も聴くことで、曲の特徴を感じ取ったり構造を理解し「感じ取る力」を高めていくことは大切である。また、楽曲を聴いてイメージしたことや感想を言葉で表し伝え合う場を設定することにより「感じ取る力」を育み、音楽鑑賞の目的であ

る音楽のよさや美しさを感じ取り、味わうことができ、鑑賞の活動を深めることができるのではないかと考えた。

2 音楽を聴いて「感じ取る力」について

(1) 音楽を聴いて「感じ取る力」とは

音楽を聴いて「感じ取る力」を新小学校学習指導要領2内容指導事項では、①曲想とその変化などの特徴を感じる、②音楽を形作っている要素の音色、リズム、速度、旋律などを感じることができる、③楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなど、の3つの視点から「感じ取る力」を示している。

渡辺學而によるとそのことは、「音楽美を享受する下地」とも述べている。つまり、小学校における音楽鑑賞は、上記の3つ視点からめあてをもって音楽を聴いて活動することで、「感じ取る力」が育まれ音楽的感受性が育ち基礎的な鑑賞の能力を高め音楽を味わって聴くようになると思う。

(2) 感じ取る力を育てるには

①自らすすんで聴こうとする意欲や態度を育てる

どの子も音楽を聴くことがおもしろい・好きだと感じ興味をもたせるために、教材のめあてに沿って「速い曲・遅い曲」「静かな曲・にぎやかな曲」など対照的な曲を意図的に聴かせる。また、スムーズに授業を展開していくために、授業の流れに沿って曲を配列した教材CDを編集することや、子どもの意識の流れを大切にすることに視点をおくことで児童に興味を持たせ、自ら音楽を聴こうとする能動的・主体的な態度を育てていきたい。

②鑑賞の活動で段階を設け指導を行う

鑑賞の活動で段階を設け指導を行うとは、初めて出会った楽曲について、音楽を形作っている要素の音色、リズム、速度、旋律、強弱に反応し、「おやなんだろう?」「おもしろそうだな」と感じたり、ピアノの低い音をゆっくり弾いた時に、「ゆったり」「どっしり」「少しこわい」などと、これまでに経験した事象と結びつけて曲想を感覚的に捉える場面を意識的に取り上げ、楽曲について、気づき、想像することのよさを伝える場を持つことである。

次に最初に聴いた印象を手がかりに、「なぜ」「どんなところから」そう感じたのかなど、教師が発問を投げかけた時、一人一人の考え方と友達の考え方は、みんな同じではなく違う考えもあることを伝える。さらに音楽を特徴づけている諸要素の働きや楽器の音色と結びつけて考えさせることも大切である。

このように、曲想を楽しむことや要素に視点をおいて聴くことができるようになると「感じ取る力」が育ち、音楽全体がわかり、楽器の音色に注意して聴くことができ、器楽曲・歌唱曲からも細かな特徴も捉えられるようになり、感じ取る力が育まれると考える。

③曲の持つよさや特徴を感じ取る場を設定する

音楽鑑賞の学習を通してさまざまな音楽に触れることは、とても大切なことである。その楽曲から受けた印象・想像したことをことばで表すことは、楽曲のイメージを深める上で必要なことである。さらにお互いに伝え合う場を設定することで、楽曲のイメージがより深まり、楽曲のもつよさや特徴を理解し「感じ取る力」が育んでいけると考える。

3 音楽を聴いて「感じ取る力」を育む学習指導の工夫について

(1) 音楽の要素や構成に視点をあて聴かせる工夫

「音色について」「曲想について」などの要素や構成に視点をおいて聴かせる時、何を聴き取ればよいのか、めあてをもたせ音楽を聴かせることは大切なことである。めあては1回目、2回目・3回目と確認させ曲を繰り返し聴かせるが、「音色」や「曲想」など子ども達の生活の中でふだん使用しない言葉が多いことからいねいに取り扱う意味での、掲示用の「ことばカ

ード」を作成する。その結果、たくさんの楽曲を聴かせたり、繰り返し聴かせたりすることで「めあての言葉」をはっきりとつかむことができ、音楽を「感じ取る力」に結びつくのではないかと考えた。

(2) 感じ取ったことを言葉で表すための工夫

感じ取ったことを言葉で表すための工夫として、思ったことを自由に発言できる雰囲気や発言する友だちの話を聞くことのできる雰囲気をつくることは、基本条件ではあるがとても大切なことである。そのために、楽曲を聴いた後の子ども達のつぶやきや指揮をしていた児童の身体表現などを取り上げ、曲のイメージを自分の言葉で自由に発言ができる雰囲気を大切に展開させていきたい。

子ども達の感じ方は一問一答ではなく、一問に対しいろいろなイメージや発想がある。「自分の意見が言える」「聞いてもらえる」「友だちの違った意見を聞く」など、自由に自分の意見を言え、受け入れられたことで、友だちの意見を受け入れることができるようになり、感じ取ったことを素直に言葉で出せるようになると思われる。

さらに、自分の考えや思ったことを発表するときの手だてとしてワークシートを活用して、簡単な文を書かせる。また、今日の授業をふりかえって書く自己評価は答えやすい選択肢にし、「一言感想」欄は、自分の考えや思ったことを文章や絵に描けるように自由コーナーとする。シンプルで書きやすく工夫することで、子どもたちは感じ取ったことを言葉で表すことができるであろうと考える。

(3) 曲のよさや特徴を感じ取る場の設定

感じ取ったことを素直に言葉で表すことで、「自分の意見が言える」「自分の意見が認められた」とコミュニケーションが取れるようになると「友だちと同じ考えだ」「友だちの違う意見を聞いてみよう」等考えるようになる。クラスの中で、互いの意見を伝え合うことができると、全体で楽曲のよさや特徴を感じ取る場が生まれると考える。その結果、その曲のもつよさや特徴をクラス全体の中で感じ取ることができ、味わうことができる児童や集団が育つと思われる。

VI 授業実践 5年

1 題材名 「いろいろなひびきを味わおう」

2 題材について

これまで3年生では金管楽器、4年生では木管楽器を学習してきた。この題材名にある「ひびき」には、「音色」と「歌声と楽器の音の重なり合う響き」がある。今回は「音色」を味わうために弦楽器を扱い、バイオリンとチェロの音色の違いを感じ取ったり、それぞれの楽器の特徴を生かして音楽のよさや美しさを味わったりする鑑賞の活動を進める題材である。さらに、他の楽器の音色や響き、曲想をイメージして味わうことができる標題音楽を取り入れた。それぞれの曲のテーマについて、楽器の音色や響きの違いを想像したりすることで、音楽を聴くことが身近になり感じ取るきっかけとなるだろう。そしてオーケストラ大編成曲へと発展し、聴く興味づけとしてつながるだろうと考えた。

また、「歌声と楽器の音の重なり合う響き」という視点からは、部分二部合唱・副次的な旋律・低音の3つのパートによるアンサンブルは二学期に取り扱いつなげたい。

3 題材のねらい

(1) 音色のひびきや特ちょうを味わって、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする。

(2) 旋律と低音の響きを感じ取って、演奏の仕方を工夫することができるようにする。

4 教材について

(1) 美しきロスマリン：クライスラー作曲

ロスマリンとは、香りの高い花を咲かせる植物の名前で「ローズマリー」とも呼ばれている。バイオリンの小品が多い中で、広く親しまれている曲のひとつであり、バイオリンの持っている表情豊かな表現力を伝えてくれる曲である。

(2) 白鳥：サン・サーンズ作曲 組曲「動物のカーニバル」より

全 14 曲からなる組曲「動物のカーニバル」の中の 13 曲目で、水面を滑るように泳ぐ白鳥の様子を、チェロとピアノの演奏で描き出している。ピアノは、あたかも水面のさざ波を表すかのように伴奏している。

(3) 「動物のカーニバル」サン：サーンズ作曲

全部で 14 曲の動物の標題がついた曲で構成されている組曲。子ども向けの管弦楽曲の代表的作品としても人気がある。室内楽編成で演奏されることも多い。

- ①カッコウ：二台のピアノの和音が森の静けさを表し、舞台裏に隠れたクラリネットがカッコウの鳴き声を演奏する。
- ②鳥小屋：弦楽器が羽ばたきを、二台のピアノがさえずりを、独奏フルートが鳴き声を表す爽快な曲である。
- ③ぞう：重々しくコントラバスとピアノが演奏する。
- ④おんどりとめんどり：鶏の鳴き声を二台のピアノとバイオリンⅠⅡ、ビオラが表現しクラリネットは 3 小節のみ加わる。
- ⑤カンガルー：2 台のピアノが、動物が跳びはねて辺りを見回す動作を交互に奏する。
- ⑥ライオン：低弦とピアノのうなり声をはさみつつ進む。
- ⑦水族館：ピアノの伴奏によって音楽を形作り、魚のうろこのきらめきを加える。

(4) わたり鳥と少年：土肥武 作詞 / 平吉毅州 作曲 / 長谷部匡俊 編曲

歌詞は、春を迎え北へ飛び立っていく渡り鳥に対して、無事に旅を続けてほしいそして再び戻ってきてほしいと願う少年の愛情を歌っている。二部合唱、副次的な旋律、低音の 3 つのパートによる相互の響きあいを感じ取りながら演奏することが重要である。

5 児童の実態

音楽の時間について「歌を歌うこと」「リコーダーを吹くこと」「リズム遊び」「音楽を聴くこと」のアンケートを行った結果、87%の児童は「音楽を聴く」ことが「とても好き」「好き」と答えた。その理由として、「気持ちよくなる」「おちつく」「いろんな曲や楽器がわかる」などである。音楽を聴くことが「きらい」と答えた児童の理由は、「時々意味がわからない」「だんだん眠くなる」「わからんことがあった」などである。

〈音楽アンケートの結果〉

	音楽の時間について	とても好き	好き	きらい	とてもだいきらい
1	歌を歌うことは好きですか。	11人	18人	3人	0人
2	リコーダーを吹くことは好きですか。	9人	16人	4人	3人
3	リズム遊びは好きですか。	8人	16人	8人	0人
4	音楽（CD）をきくことは好きですか。	14人	14人	4人	0人

6 指導観

児童の実態をふまえ、鑑賞活動の中で聴くことと表現することを一体化させる場を中心とした学習展開をはかり、音楽の表現活動にもつながっていけるようにしたい。本題材の「ひびき」には、「音色」と「歌声と楽器の音の重なり合う響き」という 2 つの学習の視点がある。「音色」という視点からは「弦楽器」を扱い、その中からバイオリンとチ

エロを取り上げて聴き比べ、音色の違いを感じ取ったり、それぞれの美しさやよさを味わったりする鑑賞の活動を進めていけるようにしたい。

さらに、少人数のオーケストラによる「動物のカーニバル」の中の数曲を教材として扱い、音色の響きや特徴を味わって想像豊かに聴いたりすることで、音楽を感じ取ることができるようにしたい。そこで鑑賞の指導においては、曲をイメージさせるために、曲の要素や構成に視点をあて、何度も聴かせることで曲のイメージをふくらませる。さらに自分の考えや自分とは違う友だちの考え方もあることを認め合い、曲の持つよさや特徴を感じ取ることができる雰囲気の中で、音楽を聴いて「感じ取る力」を育み、本来の作曲者のイメージにもつなげたい。

「歌声と楽器の音の重なり合う響き」という視点からは、リコーダーを吹くことが「きれい」「だいきらい」と答えた児童の実態をふまえながら、部分二部合唱と楽器による副次的な旋律と低音のパートによる歌声と楽器の音が重なり合う響きを感じ取り、バランスのとれたきれいな響きを求め演奏を工夫させることで「感じ取る力」も高めていきたい。

7 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

観点	ア音楽への関心 ・意欲・態度	イ音楽的な感受や 表現の工夫	ウ表現の技能	エ鑑賞の能力
歌唱	○	○	○	
器楽		○	○	
創作				
鑑賞	○			○
題材の評価規準	楽器の音色の重なり合う響きに関心を持って、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	いろいろな声や音が重なり合う響きを感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫している。	歌と楽器が重なり合う響きに気をつけて、歌ったり楽器を演奏したりすることができる。	楽器の音色の美しさを味わいながら聴くことができる。
学習活動における具体的評価規準	①曲想を感じ取り、主旋律の美しさに関心をもって歌おうとしている。 ②自分や友だちの感じたことや考えたことを、発表したり聞こうとしている。	①低音の響きを感じ取って、歌ったり聴いたりしている。 ②リコーダーを加えた響きの変化に気づいている。	①低音の重なる響きを感じ取りながら合唱することができる。 ②拍の流れに乗って、低音のパートを演奏することができる。 ③歌声と楽器の音が重なり合う響きを感じ取って、演奏することができる。	①弦楽器の音色の違いや美しさを感じ取って聴くことができる。 ②曲想が変化していく様子を感じ取ったり、情景をイメージすることができる。

8 指導計画（7時間）

◎第一次（2時間） 楽器の音色や響きの特徴を味わって聴いたり曲想を感じ取ったりする。

●学習内容 ・学習活動	教師の支援 ◆具体的評価規準
-------------	----------------

1 時	教材名 美しきロスマリン・白鳥 ● バイオリンとチェロ，弦楽器の音色の違いに気づいたりする。 ・ 2つの曲を聴きくらべ，感じたことを話し合う。 ・ 「高い音」「低い音」「速い音」「ゆっくりの音」など音色の違いに気づく。	・ バイオリンの音色に気づかせる。 ◆弦楽器の音色の違いや美しさを感じ取って聴くことができる。エ① ・ 「バイオリンの音色」「チェロの音色」について気づかせる。
2 時	教材名 白鳥 ● 「白鳥」を聴いて，チェロの音色の特徴を感じ取ったり，情景を想像したりする。 ・ 低音楽器チェロの音色やピアノの音色から曲想をイメージする。	◆低音の響きを感じ取って，聴いたりしている。イ① ・ 「音色」や「曲想」について説明し，ピアノの役割にふれ，低音楽器は白鳥，ピアノの音色は水・湖などと連想させる。

◎第二次 （2時間） いろんな楽器の音色に気を付けて，動物をイメージしながら曲を聴く。

	●学習内容 ・学習活動	教師の支援 ◆具体的評価規準
3 時 本 時	教材名 動物のカーニバル ●音色や曲想の変化を感じ取り，動物名をイメージしながら聴く。 ・ ヒント「音の強さ」「音の高さ」「曲の速さ」「楽器の音色」 ●自分の感じたことや考えたことを進んで発表する。 ・ 自分とは違う友だちの感じたイメージを共有する。	◆曲想が変化していく様子を感じ取ったり，情景をイメージすることができる。エ② ◆ 自分や友だちの感じたことや考えたことを，発表したり聞こうとしている。ア② ・ 友だちの発表を聞き，自分と違う考えもあることを知り，イメージを共有させる。
4 時	教材名 動物のカーニバル ●音色や曲想の変化を感じ取り，動物名をイメージしながら聴く。 ・ ヒント「主に聴こえる楽器の音色」「音の強さ」「音の高さ」「曲の速さ」に注目させる ●自分の感じたことや考えたことを発表する。 ・ 作曲者や友だちの考えた動物をイメージしたり共有する。	◆曲想が変化していく様子を感じ取ったり，情景をイメージすることができる。エ② ◆自分や友だちの感じたことや考えたことを，発表したり聞こうとしている。ア② ・ 自分の感じたイメージ・友だちのイメージ，作曲者のイメージなど，想像させ共有させる。

◎第三次 （3時間） 旋律の特徴を生かし歌い方を工夫したり，声や音が重なり合う響きの美しさを感じ取って，合唱や演奏の仕方を工夫する。

	●学習内容 ・学習活動	教師の支援 ◆具体的評価規準
5 時	教材名 わたり鳥と少年 ●歌詞の内容や主旋律から，曲想を感じ取り歌い方を工夫する。 ・ 歌詞を朗読して，わたり鳥の飛んでいく様子を思い浮かべる。	◆曲想を感じ取り，主旋律の美しさに関心をもって歌おうとしている。ア① ・ 少年の気持ちを想像できるようにする。 ◆拍の流れにのって，低音のパートを演

	・ 拍の流れに乗って主旋律を歌詞唱する。 ● 低音部を覚える。	奏することができる。ウ②
6 時	教材名 わたり鳥と少年 ● 低音部を覚えて二部合唱する。 ● 副次的な旋律を重ねて合奏したりする。 ・ 副次的な旋律を階名で歌ったり，リコーダーで演奏したりする。	◆ 低音の重なる響きを感じ取りながら合唱することができる。ウ① ◆ リコーダーを加えた響きの変化に気づいている。イ②
7 時	教材名 わたり鳥と少年 ● 曲想全体の響きを感じ取りながら，歌い方や演奏の仕方を工夫する。 ・ 響きの変化を感じ取りながら，全体を通して演奏する。	・ 情景を思い浮かべながら，響きのあ る声で歌うようにする。 ・ 全体の音量のバランスや強弱，速度 などに気を付けて，演奏するように する。 ◆ 歌声と楽器の音が重なり合う響きを 感じ取って，演奏することができる。 ウ③

9 本時の指導

(1) 目標

- ① 音色の特徴や曲想を味わう。
- ② 自分や友だちの感じたイメージを，言葉にして曲を共有し合う。

(2) 授業仮説

- ① 鑑賞活動の活動において曲想のイメージにせまるために，曲の要素や構成に視点をおき，何度も繰り返し聴くことにより，曲のイメージが深まり感じ取る力が育つであろう。
- ② 曲の感想や意見を発表する場において，自分の感想や友だちの意見・イメージを伝え合う学習活動を展開することにより，曲のもつよさや特徴を感じ取る児童が育つであろう。

(3) 本時の展開（第二次，第3時）

	学習内容・学習活動	教師の支援	評価方法
導 入 5 分	1 「リズムで・集中」リズム活動	○ リラックスした雰囲気的活動できるようにうながす。	
展 開 30 分	2 「動物のカーニバル」の「カッコウ」を聴き，深い森の奥のカッコウを想像させ，本時のめあてを確認する みんなで動物のカーニバルに参加し，動物をみつけよう。	○ 「カッコウ」の曲を聴き，カッコウをイメージさせるために，意見を交わしながらテーマにせまる。 例 ・ きこえたのはだれの声かな。 ・ その動物は何の動物かな。（答えはカッコウだが，違う答えも可。） ・ カッコウは今どこにいるかな。（森の中） ・ 森の中のどこにいるかな。（森のずっと奥）	

	3 3曲を通して聴かせ，参加する動物をイメージさせる。 1 「小鳥」 2 「ぞう」 3 「おんどりとめんどり」 4 自分がつけた動物の名前や，選んだ理由をワークシートに書く。 5 自分でつけた動物名や選んだ理由を発表する。 ・友だちの選んだ動物名や違う動物を選んだ理由などを聞いたり，想像したことを発表する。 6 サンサーンスの考えた曲名（答え）をもう一度ふり返りながら聴き，ワークシートをまとめる。	○3曲を通して聴かせ，参加する動物をイメージしながら，聴くことをうながす。 ・聴く時に「動物（曲名）」をイメージさせる。 ・「音の強弱」「音の高低」「曲の速さ」「楽器の音色」などに視点を当てる。 ・「楽器の音の強弱」に視点を当てた時，「動物の鳴き声」や「歩き方」等を想像させ，イメージに結びつける。 ○イメージした動物名や選んだ理由をワークシートに書かせる。 ○自分の選んだ動物名と，選んだ理由を発表させたり，友だちの違った考え方もあることを認めながら，イメージさせる。	鑑賞の能力エ② 曲想が変化していく様子を感じ取ったり，情景をイメージすることができる。観察法 意欲ア② 自分や友だちの感じたことや考えたことを発表したり，聞こうとしている。 （ワークシート・自己評価） 観察法
まとめ 10分	7 きょうの授業でわかったこと・感じたこと等を1人か2人発表する。 8 まとめ ○次時の予告	○「一言感想」が言えるように，場の雰囲気をつくる。 ○次時の意欲につながるようなアドバイスをする。	

VII 結果と考察

【検証1】

鑑賞の活動において，曲の要素や構成に視点を置き何度も繰り返し聴くことにより，曲のイメージが深まり，感じ取る力が育つであろう。

【結果】

「美しきロスマリン／白鳥」の曲を聴き比べ時「Q1」の結果，96%の児童はバイオリンとチェロの「音色の違い」について気がついていていた。

「Q1」，2つの曲を聴いて「音色の違い」に気がつきましたか。

1 よくわかった	2 わかった	3 気がつかなかった	4 ぜんぜん気がつかなかった
16人	13人	1人	0人

「白鳥」を1回聴かせた時「Q2」の結果，80%の児童は情景をイメージすることができ，「白鳥が泳いでいる」「しずかなイメージ」「音がひくかった」と答えた。イメージできなかった20%の児童は，「ねむくて，イメージを忘れていた」「ちょっとききとりにくかつ

た」「曲がむずかしかった」等であった。

「Q2」,「白鳥」を聴いて、「情景をイメージする」ことができましたか。(事前)

1よくできた	2 少しできた	3 できなかった	4 ぜんぜんできなかった
13人	11人	6人	0人

「白鳥」の音色や曲想についてイメージのやりかたがわかるように、「音色」や「曲想」について視点を聞いた時に、何を聴き取ればよいのかめあてをもたせ、何度も繰り返し曲を聴かせた。「Q3」の結果、情景を「よくイメージできた」「少しできた」という児童が80%から13ポイント増え93%になった。

「Q3」,「白鳥」を聴いて、「情景をイメージする」ことができましたか。(事後)

1よくできた	2 少しできた	3 できなかった	4 ぜんぜんできなかった
13人	14人	1人	1人

イメージすることが「よくできた」「少しできた」と答えた93%の児童は、「チェロはとても低い音と思っていたけど、とてもきれいな音色が出た」「チェロが低い音でゆったりし、ピアノがいい音になって白鳥がゆっくり飛び立とうとしている」「チェロのくらい音とピアノがちょっと高い音で追いかけていた」「やさしい感じ ねむたくなる、白鳥が眠りそうな感じ」などの感想を書いていた。

またイメージが「できなかった」「ぜんぜんできなかった」と答えた児童の感想では、「ピアノがとても静かに湖を表していて、チェロが白鳥の役をしているみたいだった。」「高い音・低い音、白鳥が湖を泳いでいる」などと、曲想を捉えた感想を書いていた。

【考察1】

「美しきロスマリン」と「白鳥」の曲を聴き比べ、96%の児童は「バイオリンとチェロの音色の違い」について感じる事ができた。また、「白鳥」を1回聴いた時に「情景をイメージ」できた児童は80%で、イメージできなかった児童は20%だった。

曲をイメージさせるために、音楽用語（曲想など）の説明をした後に、聴くめあてをもたせ繰り返し曲を聴かせる授業を展開した。

1回目は、「ピアノの音色」にめあてをおき、「水」や「湖を」イメージさせ聴かせた。

2回目は、「チェロの音色」にめあてをおき、「白鳥」をイメージさせ聴かせた。

3回目は、「ピアノとチェロの音色」にめあてをおいて、「曲想をイメージ」させた。

その結果、情景を「よくイメージできた」と答えた児童は93%になり13ポイント増加した。また、イメージできなかったと答えた児童も感想を書き、全児童が曲想をイメージすることができ、感想の内容にも変化がみられた。

このことは、曲の要素や構成に視点を聞いた時、何を聴き取ればよいのかめあてをもたせ、何度も繰り返し聴かせたことで、曲想をイメージし味わって聴くことができたからだと考えられる。

【検証2】

曲の感想や意見を発表する場において、自分の感想や友だちの意見・イメージを伝える学習活動を展開することにより、曲のもつよさや特徴を感じ取る力が育つ児童となるであろう。

【結果】

動物のイメージを「よくできた」と答えた児童は「Q4」の結果では63%から84%に

増加し、自分がイメージした動物について感想を発表したり、友だちの意見を聞いたり、伝え合う学習活動を展開するようになってきた。

「Q4」、動物をイメージすることができましたか。

	1よくできた	2少し出来た	3できなかった	4ぜんぜんできなかった
事前	63%	36%	0	0
事後	84%	16%	0	0

「ライオンの行進」の曲の感想では、「クジャクが羽を広げて動き回っているような感じ」「大きな魚が小魚を追いかけているようにきこえた」「ふくろうが夜の闇を飛んでいるように思ったから」などがある。「水族館」の曲では、「水の中の魚がゆったりとみんなバラバラに泳いでいるようなきがしたから。」「白鳥が泳いでいるみたいだった」と「白鳥」のピアノの音と「水族館」のピアノの音を重ねてイメージできるようになってきた。また、「ハリー・ポッターの音楽のようだ」とイメージした児童もいた。

いろいろな動物が想像できるようになった児童は、自分がイメージしたことを発表するだけでなく、友だちのイメージした感想を聞くことで、イメージをさらに広げることができてきた。

また、導入曲の「カンガルー」を聴いてイメージした動物では、「とら・うさぎ・かえる・ねこ・とり・ごきぶり・ネズミ・ヤンバルクイナ」等と生活の中の動物名が出てきた。身近な動物をイメージして発表するようになってきた。

図1 児童のひとことかんそう

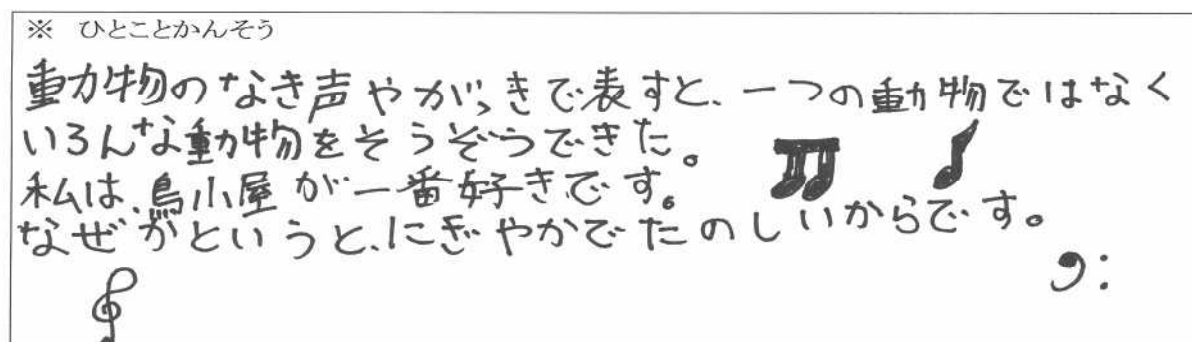


図2 児童のイメージした動物

曲名「動物のカーニバル」 作曲者「サン・サーンス」

☆ 一つ一つ曲に 動物のなまえがついているよ

みなさんのつけた動物 のなまえ(曲名)	選んだ理由	サンサーンスのつけた なまえ(曲名)
1 うさぎ	音が低い時に、低くとひはねていて音が高い時に高くとひあがっているみたい	ライオン
2 白い大きな鳥	白い大きな鳥がいっせいにダンスをしているみたいでみんなにまほうをかけてるみたい	水そう館

【考察2】

生活の中の動物名が出た時はびっくりしたが、「カンガルー」の曲と身近な動物の飛び跳ねる様子が一致したことをみんなの前で認められ児童は、自分のイメージした動物をうかべながら音楽を聴く表情は満足そうであった。また、初めのアンケートで音楽鑑賞はきらいと答え、一言感想も「なにを書いていいのわからない」と言っていたUくんが、自分がイメージしたことを発表できるようになってきた。

動物のイメージができるようになると、イメージしたことを発表したり言葉にすることができ、みんなの前で認められると、友達のイメージした動物や選んだ理由を聞く態度が生まれ、互いに発表したり言葉で伝え合う場が生まれてきた。このことは、聴くことと表現することを一体化することによって、楽曲を聴き想像したことを言葉や絵や身体で伝える場ができ、さらに、曲のイメージが深まることで感じ取る力が高まり楽曲のもつよさや特徴を感じ取る力が育ったからだと考える。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 鑑賞の活動において、曲の要素や構成に視点をおき、何度も繰り返し聴くことにより、曲のイメージがふくらみ感じ取る力が育った児童が増えた。
- (2) 曲の感想や意見を発表する場において、自分の感想や友だちの意見やイメージを伝え合う学習活動を展開することにより、曲の持つよさや特徴を感じ取れる児童が増えた。

2 課題

- (1) 鑑賞の活動において、さらに発達段階を考えた指導計画と工夫・改善が必要である。
- (2) 伝え合う場において、一人一人の児童のつぶやきをひろいあげ、ねらいにそった発問のしかたの工夫する必要がある。
- (3) 鑑賞の場の工夫が必要である。

《主な参考文献と引用文献》

『小学校学習指導要領』（第2章 各教科 第6節 音楽）	文部科学省	1999
『小学校新学習指導要領』	文部科学省 3月告示	2008
『小学校の音楽鑑賞よくわかる指導のポイント』	財団法人音楽鑑賞教育振興会	2003
『小学校学習指導要領新旧対比表』（第6節 音楽）	東京書籍 4月	2008
『小学校・中学校新しい音楽科の指導と評価』	川池聡 教育芸術社	2003
『新学習指導要領を生かした音楽科の授業』	金本正武 教育技術MOOK	2001
『新学習指導要領「共通事項」の意義と内容』	藤沢章彦 音楽鑑賞教育 5月号	2008
『子どもの可能性を引き出す音楽鑑賞の指導法』	渡辺學而 音楽鑑賞教育振興会	2006
『小学校音楽科の授業づくり 高学年編』	高須一・金本正武 明治図書	2005
『シリーズ3 音楽科の学びが見えてくる授業その指導と評価』	音楽鑑賞教育振興会	2007
『アクションビートでつくる音楽鑑賞の授業』	神原雅之 明治図書	2007
『小学校新教育課程の解説と授業づくりのアイデアより』	津田正之 学事出版	2008
『運命からピーターと狼までブルー・アイランド名曲事典』	青島広志 明治図書	2007